



2022(仏暦2565)年 4月号 (第127号)

# 万行寺寺報

Mangyoji Jiho

発行  
浄土真宗本願寺派 万行寺  
住職 山崎信充  
〒385-0003  
長野県佐久市下平尾4 6 1 - 1  
電話 0267-67-2460



## ■住職法話

「こんな私でも救われますか」

## ■浄土真宗 (新) 仏事のイロハ

## ■本願寺の本

ミトルヒト

## ■編集後記

## 年忌法要表

1 周忌	2021(令和 3)年	23回忌	2000(平成12)年
3 回忌	2020(令和 2)年	25回忌	1998(平成10)年
7 回忌	2016(平成28)年	27回忌	1996(平成 8)年
13回忌	2010(平成22)年	33回忌	1990(平成 2)年
17回忌	2006(平成18)年	50回忌	1973(昭和48)年

# 住職 法話

今月の法語

如来の本願は

風のように身に添い  
地下水の如くに  
流れ続ける

## 「こんな私でも救われますか」

言葉も震えながら私にこんな  
問いかけをされました。

「こんな私でも救われます  
か！」

私は「ハッ」と驚いて、一瞬  
戸惑いましたが、「なぜです  
か？」と聞き返すと、それは

先ほどの法話を聞いて、如何  
なる者も必ず救うぞ救わずに

はおられないという阿弥陀さ  
まの本願のお救いの話にし  
感銘を受けられたようでした。  
心 中を察してそれ以上

は聞けませんでしたが、「阿  
弥陀さまは一人ひとりに寄り  
添われる方です。必ず救われ  
ます。ご安心ください。」と  
言つて失礼をしてきました。

「こんな私でも救われます

か！」と、その方にとつては  
問いでもあり、叫びのような  
言葉でもありました。母子お

二人きりで過ごされていた中  
で、突然お母様を見送ること

になってしまった喪失感もあ  
るでしょうし、これから一人  
になつてしまうという不安感

もあつたのではないかと察す  
るばかりです。しかし、その

女性にとつては、真なる阿  
弥陀さまに出遇えた瞬間だつ  
たのでしょうか。

今月の法語は、先ず、本願  
の力を風にとえています。

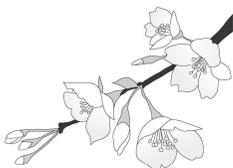
風が吹くと誰にでも届くよう  
に、本願もすべての人、一人  
ひとりにはたらきかけて下さ  
ります。また、地下水のよう

に流れ続け、どこまでもはた  
らき続けて下さるという意味  
です。

如来とは阿弥陀さまです。

その本願の力の有り難さは、  
どんな時にでも、この私の身  
に添って流れ続けて下さつて  
いるのです。この度、出遇つ  
た女性の今後が気になるとこ  
ろですが、このようなお話し  
は滅多になく、あらためて私  
もハッと気づかされる出来事  
でもありました。

ある葬儀のお勤めでの出来  
事です。高齢の母親を娘一人  
で介護されて、この度、その  
母親が往生され、葬儀のお  
勤めだけに伺わせて頂きました。  
普段のように読経と法話  
をして葬儀を終え、控え間の  
ほうで喪主の娘さんと経緯な  
どを伺っていた時の事でした。  
た。その女性は、堪えていた  
かのように突然涙を流され、



浄土真宗

④ 仏事のイロハ

二、葬儀を行う

― 悲しみを超えて ―

「お通夜とは」

亡き人と過ごす最期の夜

葬儀の前夜には、通夜のお勤めが行われます。通夜とは文字通り、近親者や親しい知人が、夜を通して「ご本尊前の遺体のそばに集い、亡き人を偲びつつ仏さまの救いを味わう法事です。ですから、お勤めが行われる時には参列者も僧侶と一緒に勤めさせていただきたいものです。

通夜のことを、昔は夜伽とも言いました。一つの布団に入って、本心で語り合うのが

夜伽です。亡き人が声なき声で語りかける人生最後のメッセージを心して聞き、送る方も一番伝えたいことを亡き人に語るためにあるのが夜伽であり、お通夜です。

ところが、こうした故人の遺体とともに過ごす最期の夜にもかかわらず、喪主や遺族がまるで弔問者（参列者）とあいさつを交わす場になっていくケースがあります。自宅以外の、たとえば葬儀



会館などで通夜・葬儀が行われる場合にしばしば見受けられるのですが、ご本尊前でお勤めしていると、焼香を終えた遺族の方たちが次から次へと席を離れ、入口近くの「一般焼香」の方へ行つて、弔問者一人ひとりに頭を下げているのです。私がお勤めを終え、振り返ってみるとあたりは

「もぬけのから」、誰もいません。これでは「仏さまや亡き人を放つておいて、何をしているのか」と、つい言いたくなります。

重ねて申しますが、お通夜は、亡き人のそばで仏法に耳を傾け、人生最後の会話をする時であつて、弔問者にあいさつするためにあるものではありません。参列者もこのことを十分に踏まえてお参りいただきたいのです。

さらに、お勤めの後には御文章の拝読や、法話も行われます。それらも参列者一同、静かにお聴聞してください。喪主あるいは遺族の代表者が参列者にあいさつするとすれば、この法要が一通り終わった後に行えばよいでしょう。

以上のことはお通夜に限らず、葬儀においても言えることです。参列者に顔を向けるのではなく、ご本尊の阿弥陀さまの方を向くことが肝心なのです。

「浄土真宗 ④ 仏事のイロハ」末本弘然著／本願寺出版社刊より」



～本願寺の本～

「ミトルヒト 終末期の悲嘆に寄り添う一人の僧侶の軌跡」

長倉伯博 著／本願寺出版社 刊 1,100円(税込)

終末期を迎えた患者やその家族には、身体的・精神的・社会的なさまざまな「痛み」が現われる。医療だけでは除けない心の痛みのケアこそが宗教者の役割であると、仏教と医療の協働を呼びかける”着取り”僧侶の半生を綴る。

[本願寺出版社ホームページより]

仏教者が関わる社会福祉活動に「ビハーラ」があります。著者は、その活動を通して出遇ってきた方々の思い出を紹介されています。



親鸞聖人御誕生850年 慶讃法要  
立教開宗800年

Joint Celebration

850th Anniversary of Shinran Shonin's Birth & 800th Anniversary of the Establishment of the Jodo Shinshu Teaching

法要期日

2023(令和5)年

第1期 3月29日(水)～4月3日(月)  
第2期 4月10日(月)～4月15日(土)

第3期 4月24日(月)～4月29日(土)  
第4期 5月6日(土)～5月11日(木)  
第5期 5月16日(火)～5月21日(日)

毎月16日はShinran's Day 浄土真宗本願寺派  
親鸞聖人のご命日です ご参拝ください 龍谷山 本願寺

編集後記

花の季節を迎えました。佐久市を通る小海線の電車と桜の写真を表紙にしました。◆長野市の善光寺では、一年遅れの御開帳が催されています。また、多くの参拝が予想されます。他宗の催しではありますが、秘仏とされるご本尊は、浄土真宗と同じ阿弥陀如来です。日常を離れ、仏さまにふれるご縁を頂くことは大切なことです。◆御開帳に限らず、人の移動が多くなる時期でもあります。感染が広がらないか心配もあります。個々の対策をきちんとされ参拝されることを望みます。

